

実務経験のある教員による授業科目（薬学部）

| 科目名 | 単位数 | 実務経験を活かした教育の取組 | 薬学 | 生命 |
|-------------------|-----|--|----|----|
| 微生物薬品学 | 2 | 製薬企業研究所の状況をふまえ、現代社会における微生物薬品学の重要ポイントをおさえる。 | ○ | ○ |
| 分子神経科学 | 1 | 国公立および海外の研究所・大学での研究経験がある教員により講義 | ○ | ○ |
| 医薬品情報学 | 1 | 病院薬剤師勤務における医薬品情報管理及び臨床試験（治験）の経験を講義に反映する。 | ○ | ○ |
| 医療機能系実習II | 1 | 主担当教員は医師としての診療の経験が30年以上あり、現在でも睡眠学会認定の専門医として、睡眠障害の診療を行っている。その経験から、薬理学の基礎になる病理・病態生理の説明にも重点を置いて実習を進めている。 | ○ | ○ |
| 医療経済学 | 1 | 本授業は、すべて薬局・病院で現在実務を行っている者、あるいは実務経験者が講師を担当する。 | ○ | ○ |
| 医療薬学Ⅰ | 2 | 大学附属病院の医師として診療に携わった経験を持つ教員が、実務に関連した内容の授業を行う（5回）。 | ○ | |
| 医療薬学Ⅱ | 2 | 主担当教員は医師としての診療の経験があり、病態生理および医療現場の理解を講義の重点に置いている。 | ○ | |
| 医療薬学Ⅲ | 2 | 主な担当教員は薬剤師や医師としての経験があり、より実践的な講義を重点に置いている。 | ○ | |
| 医療薬学Ⅳ | 1 | 薬剤師業務に携わった経験を有する教員が講義を行う。 | ○ | |
| 環境衛生学 | 2 | 生物系実習Ⅱにおいて下水処理施設を訪問、職員の方々からの解説を受け、質疑を行うが、これに関連付けて講義する。 | ○ | ○ |
| 漢方薬物治療学 | 2 | 1回分を、実際に漢方診療を行っている医師に講義をお願いしている。 | ○ | ○ |
| 基礎薬学演習 | 2 | 主任担当教員は持ち回りであるが、医療系・臨床系の6分野の教員が全員参加し、その中には臨床教員や医師として臨床診療を続けている教員が複数含まれる。 | ○ | |
| 機能形態学Ⅱ | 2 | 一部講義は、臨床経験が豊富な医師・薬剤師の教員が行う。 | ○ | ○ |
| コミュニティ・ヘルスケア基礎 | 2 | 本授業の講師は 現在臨床現場や行政で活躍する専門家、実務家教員が主に担当する。 | ○ | |
| コミュニティ・ヘルスケア応用 | 2 | 本授業は 地域で活動する行政職員、ボランティア等と大学実務家教員が連携して実施する。 | ○ | |
| コミュニティ・ヘルスケア発展 | 2 | 本授業は 臨床研究経験のある実務家教員が担当する。 | ○ | |
| コミュニティ・ヘルスケア実践 | 2 | 本授業は、臨床研究経験のある実務家教員が担当する。 | ○ | |
| 公衆衛生学Ⅱ | 1 | 衛生・環境関係の公的研究所、学校薬剤師、行政に従事している外部講師による事務内容を中心とした講義を含む | ○ | ○ |
| プレゼンテーション演習 | 1 | 製薬企業で医薬品開発に携わった経験と(独)医薬品医療機器総合機構の専門委員を務めている教員が担当する。 | ○ | ○ |
| 臨床薬学実務実習Ⅱ（病院実習） | 10 | 病院あるいは薬局勤務経験を活かした、説明を行う。 | ○ | |
| 臨床薬学実務実習Ⅱ（病院実習） | 10 | 病院あるいは薬局勤務経験を活かした、説明を行う。 | ○ | |
| 臨床薬学実務実習Ⅲ（保険薬局実習） | 10 | 本実習は、実習施設で、大学教員と連携しながら認定実務実習指導薬剤師が指導・評価を行う。 | ○ | |
| 臨床薬学実務実習Ⅲ（保険薬局実習） | 10 | 本実習は、実習施設で、大学教員と連携しながら認定実務実習指導薬剤師が指導・評価を行う。 | ○ | |
| 臨床薬理学Ⅱ | 1 | 主担当教員は医師としての診療の経験があり、病態生理および医療現場の理解を講義の重点に置いている。 | ○ | ○ |
| 生物統計学Ⅰ | 1 | 製薬企業で医薬品開発を担当した経験と(独)医薬品医療機器総合機構の専門委員を務めている教員が担当する。 | ○ | ○ |
| 生物統計学Ⅱ | 1 | 製薬企業で医薬品開発を担当した経験と(独)医薬品医療機器総合機構の専門委員を務めている教員が担当する。 | ○ | ○ |
| 先端薬科学 | 2 | 担当教員の中には、企業の研究所、病院などで勤務経験があるものが複数いる。 | ○ | ○ |
| 創薬科学・知的財産活用論 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 弁理士が、特許制度の基本的な知識と手法について講義する。 製薬企業の研究部門の研究者が、企業における創薬科学研究について講義する。 企業の知財部門で勤務する知的財産専門家が、特許を用いた研究成果の保護・活用の考え方について講義する。 大学の産学官連携推進部で勤務経験のある教員が、バイオ分野の知的財産権の特色、起業活動およびベンチャービジネス論について講義する。 | ○ | ○ |
| 薬事関連法・制度Ⅰ | 1 | 薬事行政及び薬剤師業務を担当・経験した講師が、薬事関連法規・制度を講義する。 | ○ | ○ |
| 薬事関連法・制度Ⅱ | 1 | 行政及び調剤実務家の立場から薬事関連の業務に携わった講師・教員が、薬事関連法規・制度を講義する。 | ○ | ○ |
| 薬理学Ⅱ | 2 | 主担当教員は医師としての診療の経験が30年以上あり、現在でも睡眠学会認定の専門医として、睡眠障害の診療を行っている。その経験から、薬理学の基礎になる病理・病態生理の講義にも重点を置いている。 | ○ | ○ |
| 薬理学Ⅳ | 1 | 主担当教員は医師としての診療の経験が30年以上あり、現在でも睡眠学会認定の専門医として、睡眠障害の診療を行っている。その経験から、薬理学の基礎になる病理・病態生理の講義にも重点を置いている。 | ○ | ○ |

実務経験のある教員による授業科目（薬学部）

| 科目名 | 単位数 | 実務経験を活かした教育の取組 | 薬学 | 生命 |
|---------|-----|---|----|----|
| 薬学英語III | 1 | 留学や国際学会など海外での経験を講義に取り入れる。 | ○ | ○ |
| 薬学英語IV | 1 | 大学院生・博士研究員・教員として22年間をアメリカで過ごした国際的に著名な研究者が、アクセントを含めた正しい学術英語の発音などについて4回分講義する。 | ○ | ○ |
| 薬局管理学 | 1 | 本授業は、薬局での実務経験のある教員が担当する。 | ○ | |
| 薬学概論II | 1 | 本講義で薬剤師、コミュニケーション、倫理関連の授業を担当する講師は、臨床現場で実際に業務している薬剤師、薬剤師臨床経験のある教員が現在の医療現場の状況を踏まえて講義する。 | ○ | ○ |

【専門教育科目】

| | | |
|---------|----|----|
| 全学共通科目 | 0 | 0 |
| 学部等共通科目 | 28 | 28 |
| 専門科目 | 58 | 0 |
| 単位数合計 | 86 | 28 |

【教養教育科目】

| | | |
|---------|----|----|
| 全学共通科目 | 24 | 24 |
| 学部等共通科目 | 32 | 30 |
| 専門科目 | 0 | 2 |
| 単位数合計 | 56 | 56 |

【合計】

| | | |
|---------|-----|----|
| 全学共通科目 | 24 | 24 |
| 学部等共通科目 | 60 | 58 |
| 専門科目 | 58 | 2 |
| 単位数合計 | 142 | 84 |